

～3学期 TF レター～

2024年度も父母の皆様のご協力のもと、たくさんの行事を開催してまいりました。

今号は、3学期の活動のご報告と「先生特集」です。高校数学科の宮川学先生にお話を伺いました。

第3回文化講座(1/25)

冬晴れの美しい空の下、第3回文化講座「家庭でできる中東・地中海料理」が開催されました。

今回講師を務めてくださったのは高校国語科の桑原先生です。桑原先生は日本チュニジア友好協会会員としても活動されており、大使夫人から直接伝授された本格的なお料理を、家庭で再現しやすくアレンジして紹介してくださいました。

ご参加の皆様はグループに分かれ、フルコースの献立から各グループ1、2品の調理を担当していただきました。聞き慣れないカタカナ表記のお品書きや、ハーブやスパイスを巧みに使ったレシピに戸惑いながらも、皆様の手際の良さと美しい仕上がりに感心させられました。

そして皆様と一緒に食作法を唱えてから実食!どのメニューもレストラン並みの美味しさで大成功を収めました。

エキゾチックなスパイスの香りが漂う中、桑原先生より中東文化や地中海料理の興味深いお話を伺いました。先生お手製のデザートと爽やかな味わいのミントティーを楽しみながらの歓談はとても弾み、終始笑顔の絶えない和やかな会となりました。

ご参加くださった皆様ありがとうございました。次回の文化講座もぜひご期待ください。



高2懇談会(2/15)



講堂で高2学年懇談会が開催されました。オープニングでは東海学園交響楽団が、3月21日に行われる定期演奏会でも演奏するドヴォルザーク作曲交響曲第8番より第4楽章を演奏してくださいました。

高2担任団を代表して、学年主任の村上彰慶先生にご挨拶いただいたあと、現高3学年主任の山田隆周先生より受験期となる新年度の一年間の流れや留意点についてお話を頂きました。続いて OB 父母

発表、OB 生徒発表、文理に分かれての分散会が行われました。

【高3学年主任山田隆周先生】

まずは授業をしっかり受け、テストで点数を取り単位を確保しないと「受験生」にはなりません。「夏休み」は実は3回あります。授業もテストもない40日間が、1学期終業式から2学期始業式の間にあるだけでなく、2学期終業式から共通テストまでと、共通テストが終わってから二次試験までにもあります。まずは授業を大切に1学期で認定点をしっかり確保して2学期に備え、夏休み1回目は習慣付け、2回目は共通テストに向けて勉強して基礎を完成させ、3回目は実践に向けた勉強をして下さい。共通テストの新科目[情報]は、情報の勉強にこだわるといふより主要教科にしっかり取り組んでほしいと思います。



外部模試の受けすぎはよくありません。模試の結果はデジタル化されていて保護者の目につきにくいので、パソコンに送られるようにするなど工夫が必要です。5月申し込みの学校の夏期講習は早起きの習慣を絶やさないように利用して下さい。

小論文の添削は随時先生へ依頼してください。卒業生に直接話を聞く機会や、過去に面接を受けた先輩の情報もみることができます。

一般推薦は9月頃より学内選考があり、共通テストと二次試験の間の2月初旬ぐらいに合否発表がありますので、不合格だった時に落ち込むことを念頭においてください。

保護者の方にしてほしいことは、情報発信を朝礼で行いますので遅刻をさせないようにすることです。リラックスする時間も必要です。10月で学校行事が終わってしまうので11月がしんどくなる時期です。努めて笑顔で November Smile を意識してください。

[T]とにかく[O]応援[K]過去でもなく[A]明日でもなく[I]今の自分

【OB 父母西村めぐみさん】

息子は名古屋大学医学部1年生。中高ではバドミントン部に所属していました。高2の9月県大会出場を最後に引退し、そこから受験を意識しました。自分で考えて行動してほしい、自分の人生は自分で決めてほしいと思っていましたので、情報を集めたりはしませんでした。

練習のためにと藤田医科大学を受験することにしました。面接は制服では受験できず、受験期にスーツを購入しましたが、3月の合格発表から4月の入学式まで手続きであわただしい中、早めに入学式のスーツを購入できたのはよかったと思います。

医学部受験に必要な志望理由書は、名古屋大学では700字～800字必要でした。息子が書いた志望理由書は高校生らしい素直な文章で、夫も私も良いんじゃないとだけ伝え、先生に添削はしてもらいませんでした。

食事と体調管理、感染対策にも気をつけました。自分の気分転換には、熱田神宮参拝を目的にウォーキングをしました。東海の良きライバル、生涯の友達と一緒に受験を乗り越えてほしいと思います。

【東京大学理科Ⅰ類1年矢島寛也さん】

理科Ⅰ類には女子が10%いるのですが、僕のクラスには1人もいないので東海7年目のような生活をしています。

中高は弓道部に所属していました。弓道部に仲が良く、すごく勉強ができるライバルがいて、その子に勝ちたくて勉強を頑張っていました。数学が得意だったので理系に進みましたが、学科選びにはとても悩み、高2の担任だった宮地先生に相談して進振のある東京大学を志望することにしました。高3最初の模試で気負いすぎたのか大コケしたのですが、高3の担任だった松崎先生に「最後の最後に結果を出せば良い」という助言

をいただき、志望校を変えずに頑張ることができました。勉強で気詰まりしたときは、気分転換にもなるので職員室に添削を頼みに先生のところへ行くといいと思います。共通テスト対策では国語の点がなかなか伸びず、最終的には古文・漢文を満点とるぐらい完璧にすることにしました。二次試験前は得意な数学を封印して、苦手な英語だけに取り組み、なんとか志望校に受かることができました。

【京都大学法学部2年林亮輔さん】

法曹界に進みたいと思っていたので、趣味の史跡巡りもできる京都大学法学部を選びました。

春休みから1学期にかけ数学の基礎を固め、英単語や古文単語に取り組みました。夏休みは1週間のうち5日間は二次対策、2日間は共通テスト対策をしました。英語と国語は特に先生に添削をしてもらうことをお勧めします。12月初旬ぐらいから共通テストに向けて予想問題集から始め、過去問をやり、共通テスト後に二次試験に向けて頑張るのがいいと思います。

メリハリをつけて休む時にはしっかり休めるよう時間管理をして下さい。リフレッシュとして実際に大学に行ってみることもおすすめです。頑張っても結果がついてこない時はつらいです。模試は模試と考え、勉強次第で受かるという精神を本人が持てるように周りが伝えてあげてほしいと思います。本番初日で失敗した時には、二日目に向けて頑張れるように声かけしてほしいです。二日目を受けなかったら絶対に合格はできません。試験は絶対受けるように励ましてほしいです。

先生特集

先生特集について

東海の教育を直接支えて下さっているのは、ご存知の通り様々なタイプの優れた先生方。そんな素晴らしい先生方をご紹介します、より深く東海を知って頂こうという企画です。

今年で東海生活 30 年の節目を迎えられる宮川先生。サタプロや記念祭など、生徒と一緒に活動されている姿が目に見え方も多いのではないのでしょうか。東海中高父母懇の活動の中でも、楽しく場を盛り上げることに長けていて、いつも笑顔で朗らか。その柔らかさの内側にある、まっすぐで熱い心持や生徒に対する思いを語っていただきました。(1/31取材)

宮川 学 先生



高校数学科
高校学習指導部長
サタデープログラム実行委員会 顧問
東海一筋 30 年
愛知県名古屋市北区出身
小学校 サッカー部・野球部
中学校 バレーボール部
高校 バレーボール部
大学 名古屋の大学 理学部
ペット ネコ3匹 キューちゃん、パルちゃん、ニャン太
父母懇 北地区、尾北地区、東三河地区 担当

—数学を好きになったきっかけ

なんでもそうだけど、解けた時の喜びが積み重なったこと。「算数」は複雑な文章題もあつたりして難しいイメージであつたが、中学になって「数学」になると、とてもシンプルになった。どのジャンルも一つ一般化・公式化すれば、それに当てはめると答えが出る。複雑な問題に出会っても、今まで知っていることを組み合わせることで答えが導き出せる。違ったアプローチをしても最終的な答えが同じになることに感動。簡単に答えが出ることに喜びを覚え、解くスピードも速くなり、どんどん数学が得意になって、得意だから好きになった。

得意になってくると、数学の先生と数学の会話ができるようになった。それも楽しかった覚えがある。その数学の先生とさらに話せるようになりたくて勉強した。

教員になってからも、この公式でなぜ解けるのか、とより深く仕組みを勉強している。他の数学の先生と話すことで、新たな発見に盛り上がることもある。そのたびに感動して、「これを誰かに伝えたい!」とどんどん好きになっていく。

今でも数学の授業準備はワクワクする。どんな授業にしようかと。高校では学年が上がると、入試問題演習になることが多いが、生徒が知らなさそうな別解を出して、「お〜!」と驚かせたいばかり。うちの生徒はちょっとやそっとじゃいい反応をしてくれないから、一つの授業で盛り上がる場面を作ろうと準備するが、うまくいかないことも多い(笑)。

数学を好きになったもう一つの理由は、高校時代、気になる女の子に解法を教えてほしいと頼りにされるようになったから。基本的には答えるのだけど、ある時答えられなくて悔しい思いをした。それ以来、なんでも答えられるようにと問題集を解きまくった。そのうちに数学のいろいろなことが分かってきて、さらに得意になった。動機が不純すぎますね(笑)。

一東海に就職した経緯

父が県立高校の数学の先生で、幼少の頃から学校の話ばかり聞かされたことを思い出す。「担任をしていて楽しい」「部活の顧問が楽しい」「文化祭が楽しい」。決して楽しいだけではなかったと思うが、後ろ向きな話は一切聞いたことがなかった。高校に連れて行ってもらって、父と生徒さんとの姿を幼い頃から見ていた。だから、自分も教員になるのだろうか、と感じていて、他の職業に就くことはあまり想像がつかなかった。自分にとって教員という職は天職とは言葉が過ぎるけど、父もそうだったように自分自身も楽しく喜びを感じられる職。楽しいと思えることを職業にできて、導いてくれた父には感謝している。

公立校出身なので、私立校の教員になるイメージは全くなかった。満を持して公立教員採用試験を受けたが、第二次ベビーブーム世代で受験者が多く、採用人数が少なかったこともあり、合格には至らず。私学適性検査を受けて、東海をはじめ、複数の学校から声がかかったが、学力の高い東海を選んだ。母校(男女共学)での教育実習は、ちやほやされたりほめられたりして華やかな体験だったので、東海でも同じようになると想像していたが、男だらけの教室には、華やかさのかけらもなかった。新任ということで、最初こそ授業は聞いてくれていたが、しばらく経ってからは、クラスのほとんどの生徒に寝られたこともあり、東海では現実を見せつけさせられた。その中で、コアな宮川ファンができて、休み時間に「宮川さん!」と近寄って話しかけてくれ(笑)、数学の話や雑談をしていると、改めて生徒と分かり合える喜びを知った。生徒たちは正直で、つまらない授業を聞くと反応がない。知的好奇心を求める生徒たちに応える授業をすると、クラスのボルテージが爆発的に上がり、凄い食いつきを見せるのがわかってからは、しっかりと勉強して授業の質を高めていかなければならないと気付いた。先生に迎合したり忖度したりすることは備わっていない東海生。とにかく面白いものを求める生徒たちに応える授業ができて、一体感が持てたときは、味わったことのないような喜び、というか胸の高鳴りを感じた。今でもそれは同じ。

私立は閉鎖的で固まった、世に開けていないイメージであったが、そのうち職場の自由さ、先生方の人間味あふれる大っぴらな感じ、のびのびとした東海の校風にどっぷりつかって…いつしか県立の道は消え去り、というか、こちらでも自分の求める楽しい教員生活が送れると気付いたことが正直なところ。担任に就き、授業や部活に明け暮れる日々が続いた。

―学生の時に、もっと学んでおけば良かった、やっておけば良かったこと

「遊び」こそ「学び」。大学生活では今まで味わったことのない世界の広がりを感じた。大学三年生から一人暮らしを始め、両親の存在が一気に遠ざかり、親以外の大人に接する機会が増え、いろいろなことを学んだ。一つ例を挙げると麻雀(笑)。4人集めるため、人が人を呼んで、輪が広がりとくさんの知り合いができた。その知り合いと遊んだり話したりする中で、自分にとっては知見を広げる豊かな経験となった。麻雀好きが多い東海生、これから麻雀を通してどのような「学び」をしていくのかな。

学生の頃はいち早く教員になりたかった。22歳で教員になるのはレアパターンで、自分は43年間教員をやることに。働きながらやりたいことはやっていけばいい、とは考えていたけど、仕事に邁進して余暇の時間が持てなかった。やっておけばよかったこと・・・強いて言えば、さらに「遊び(=学び)」の時間を増やすという意味で、大学院に行っておけばよかった。

―生徒と対峙する時に心がけていること

自然体、素の自分を出して、学校行事を一緒に取り組むことを大切にしている。教師の仮面をとって、素の自分を生徒たちが受け入れてくれることで、生徒の本音が出て、一緒に悩んだり喜んだりすることができる。生徒と通じ合うことが自分にとって一番の喜び。

生徒の前に立つ大人として「誠実である姿」を示していきたい。生徒の意見は尊重しつつ、これまで経験してきた自分の意見も伝えながら、皆で一つの価値観を作りたいと思っている。これまで30年の教員生活のうち、14回はクラス担任をしたが、すべてが思い出に残るクラス。目立つ子もいればそうでない子もいるが、自分が一番心がけていることは、行事では40人いたら40人と何らかの形でかわり、分かち合いたいということ。記念祭においては、工作が得意な子、人前で話すことが得意な子、それぞれ得意なものを見つけて、みんなで誘い合って一緒にやろうよ!とクラスが同じ方向を向くといいなと思う。そのために、日頃から意見が言いやすく明るく笑顔の多いクラスになるよう、担任が温かく見守ることが大切だと思っている。

これまで記念祭に向けて、クラスの中心メンバーといろいろ下見に行った(USJ、TDL、テレビ局、映画、打ち上げも)。これによって中心メンバーの結束も高まり、担任の自分も一緒に楽しんでしていた。最後に担任をしてから8年が経つ。同年代の紺野先生が昨年度から担任に戻って、すごく楽しそうに中二を受け持っているのが、実はうらやましい!

―初恋・恋愛について

スポーツをやっていたし数学もできたから、それなりにモテた(笑)。ただ、傷つきたくないから、あえて距離を置きながらアピールするタイプでもある(笑)。下校時間に偶然を装ってその場に出くわすとか、好きではないフリをすとか。自分が好きだった人にはおそらく好きになられていないと思う。前出の数学で頼りにされた子には、たぶん利用されていた(笑)。また、当時の彼女に文化祭の最終日に校舎裏に呼び出されたので期待して行ったら、「距離を置きたい」と言われたという経験もある(涙)。10代でそういう感覚がないと思われる東海生は、恋愛なんかどうでもいいくらい趣味や学校行事や友人との時間が楽しそうで、充実していて明るくて、こういう10代も過ごしてみたかったなと思う。それにしても、ダンディーでお洒落な稲森先生(東海中高ご出身)は生徒の頃から格好良かったのだらうと推量されるが、東海時代にどこでどういう活動をしていたのだらう?

一自分の性格について

「負けず嫌い」!昭和のがんばる世代だから? なのかもしれない。だけど前に比べて、そのこだわりは随分減って、みんなの意見を聞き、丸く収めるタイプになってきた気がする(笑)。

あと、AB 型だからなのか、まじめな時とそうでないときがある。基本的には与えられたことはすべてこなさないと気が済まないが、時にすべてを投げ捨てて遊びに走ってしまう自分もいる。あとは悩みすぎない。失敗の経験も数多くあるが、不思議と日が経つと忘れてくるいい性格だと思う。教員をやっているはずと悩んでられない!

一数学が苦手な生徒へアドバイス・メッセージ

大学入試に向かう数学はセンスではないと思う。努力してやり方をつかむこと。ゲームと同じだと思う。ゲームになると、それこそ生徒たちは複雑で難解なルールを理解してクリアしていくのだから、数学も同じ感覚で一つ一つクリアしていくことができるはず。数学が面白くないのは結局、大して取り組んでもいないのに点数が取れなかったというだけ。

幸い東海では何度でもチャンスはある、と生徒にはいつも言っている。ダメだと思ったときに次のチャンスに向けて、なんとかしようと思うことが大切。方法を探って次のテストに向けて問題に取り組んでみる。大問が一つ解けた、など成果があると、「オレ、数学イケるかも」という暗示にかかり、それが積み重なってまとまった点がとれてくると、さらに面白くなってくる。

わからなかった時、行き詰った時には、近くにいる友人や好きな先生に「わからない!」「どうしたらいいですか?」とひとまず言ってみよう。自分一人で抱えると、数学が嫌になって離れてしまう。

なんでもそうだけど、つまらなかつたらやらなくなる。これ面白いなあと思えることが大事。何度でも這い上がるチャンスはある。教員は成功体験を積むサポートがしたい。先生に心を開いて話してみよう!

一先生にとっての癒しの存在は?

生徒と分かり合えることが最大の癒し!授業での感動のボルテージが絶頂に達した時、サタプロが盛り上がった時、記念祭でいいクラス企画を生徒が作り上げた時、質問に来てくれた生徒の「わかった!」の声の一つ一つ。

教員生活後半になってからは、父母の存在。父母懇に関わって16年になるが、オータムフェスや地域懇、父母懇活動とともにアイデアを出しながら作っていくのは、昔の文化祭の感覚がよみがえるよう。最近だと合唱や振り付けも笑顔で楽しんでいる父母を見ているのが嬉しい。何より、同じ大人同士、学校のことで雑談しながら父母と笑い合うことはとても楽しい。=癒し。

家に帰ってネコが寄ってきてくれる。ネコの、無表情な顔や一心不乱に餌を食べていたり、幸せそうに丸まって寝ていたりするのを見ていると、可愛い=癒し。



一東海の父母の印象

父母懇行事やオータムフェスに関して、より良くなるように寄り添って考え、一緒に実践してくださっている感

覚が大きい。近年は学習指導部長の立場で話すことが多いが、その中の「お子さんをほめて調子に乗せて、行動できるようにしていきましょう」、という私からのお願いを、私自身にもしてくださっている。父母懇活動で話す中で、私を調子に乗せてくれて、教員としての自信がさらにつき、そして教員のスキルが確立するサポートをしてもらっていると感じている。

一生徒と父母と教員とが参加する東海ならではの教育

今年度の愛知サマーセミナーの会場校となったので、自分とかかわりの強いサタプロ実行委員や生徒会の生徒に運営のサポートを依頼した。サタプロや生徒会のイベントに向けて活動する彼らは、とても計画的で実行力もあり頼もしい存在。開催 3 日間で来場者が3万5千人を超えるサマーセミナーという大イベントにおいても、校舎内誘導（掲示も含む）と飲料販売を担ってくれた。日頃からそうだが、東海の生徒は大人に言われたことをやるのではなく、自主性や自発性を原動力として仲間を動かしていく。生徒の一生懸命でひた向きの姿や、確実な仕事ぶりをとても誇らしく思うし、この力は将来、社会で通用するものだと思う。東海生って本当にすごい、とリスペクトする瞬間。記念祭やサタプロでは父母、教員、市民などの大人が生徒の活躍を褒めて、それが生徒の自信につながり大きく成長する。一方サマーセミナーは、大人も同時に人のために動くイベントである。生徒たちが汗を流しながら献身的に働く大人の姿を見て学ぶ機会にもなっている。教え込む教育ではなく学ばせる教育の実践。とてもいい光景が広がっている。

一東海の先生方の、話しやすい理由



東海父母懇を28地域で分けて行う「地域懇談会」、これは東海の特徴の一つであり、教員と父母の絆をつくる貴重な場となっている。それがしっかりと定着していることが、話しやすい理由の一つだと思う。自分だけではなく、ほかの先生方も積極的にこの地域懇に参加し関わっているのは、学校づくりの上で、父母とのコミュニケーションが不可欠だと認識しているからだと感じている。

教員としての喜びは、父母の皆さんと同じ「子どもの成長」、「いい学校になること」。さらにいい学校を目指して父母と教員がともに手を携えることが大切である。東海はこれまで、父母懇を大切に

してきたからこそ、ここまでの学校となったし、父母懇が活性化すればするほど、生徒にも父母にも愛される、かけがえのない学校になっていくのと思う。父母と教員間で信頼があり、そして楽しい関係性を築けなければ、活気ある父母懇は継続していかないと思うので、自分が懸け橋の存在になれたらよいと思っている（父母が望めば、華麗に歌ったり踊ったりもしますよ♪）。

ぜひ父母懇談会に積極的に参加していただき、皆さんとともにいい学校を作っていきましょう！





どうにもママならないね。

編集後記

桜の開花予想日発表にソワソワする時期になりました。今年は満開の桜のもと、中高入学式となるのでしょうか。

4月には東海中高父母懇談会に新入生父母を迎え、「春の地域懇談会」を皮切りに、一年を通して皆様で楽しめる行事を行ってまいります。

来年度も温かいお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

広報部